

第27回NM-GCOEセミナ

(九州大学大学院医学研究院・准教授)

2009.11.26 医学部5号館6F リフレッシュ ルーム

~腸管出血性大腸菌 0157 による急性脳症の

病態解明と診断・治療法の開発~



大腸菌の進化を車 に例えるなど、大 変わかりやすい説 明をして下さいま した。







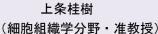
腸管出血性大腸菌 0157 は、出血性の下痢や溶血性尿毒症症候 群を起こす、毒素産生型の大腸菌である、藤井潤先生による今回 のセミナーでは、副題の「臨床から基礎へ・基礎から臨床へ」の 文字通り,0157についての幅広い知識を得ることができた.0157 は、非病原性の大腸菌が、腸管病原性大腸菌となり、さらに赤痢 菌の志賀毒素と同じベロ毒素を獲得して今も進化を続ける emerging infectious disease であるという. マスコミで報道さ れる食中毒という言葉からは想像しがたいが、0157感染による急 性脳症は、血液脳関門・髄液脳関門を破壊して致死性となること がある。しかし、これまで、抗菌剤やステロイドの使用方法を含 めて、統一的な診断・治療指針が確立されているとは言い難い. こうした現状に、研究グループは、急性脳症の動物でのモデル系 を確立し、その病態解析・発症メカニズムの解明を通じて、診断・ 治療法からワクチン開発までを押し進める。特にベロ毒素のレセ プターとなる糖脂質 Gb3 の発現レベルが、小児での症状悪化の要 因になるのではないかという最新の知見は興味深かった。また、 急性脳症モデルマウス系の確立の際に、研修医時代の臨床経験か らマイトマイシンの使用を思いついたエピソードは、基礎から臨 床へ、臨床から基礎へと行き来する

考になりました。

から臨床をするにあたっても大きな参 の知見を聞くことができたことはこれ 簡単な書物からの知識しかなく、

スとなった. 上条桂樹

ことの重要性の訴えに説得力を持たせた. 牛レバーなど肉類の生食の危険性や調 理方法による食材の汚染などの話題は. 感染予防にすぐ役立つ実践的アドバイ



する姿勢に大変感銘を 乗り込み、究明なさろうと 集団感染の場に単身



堺市で起きた 0157 事件から早 14年

初めて知りました。 細かいところまで理解することがで 関して、感染の分子メカニズム等の については大変詳しくなりました。 りました。 に遭っていることを知り、勉強にな 集団発生以降も各地ではまだ被害 てその 0157 感染の対策に多大な研 て知りました。 0157 による急性脳症については 0157 感染による脳症の存在を初 普段新聞等で目にする 0157 に 非常に面白いセミナーでした。 アメリカでは日本と違っ 1996 年大阪での この時間で 0157

側面

大変勉強になりました。今まで

から幅広くお話を聞くことがで

0157 の臨床から基礎、